

令和6（2024）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	コノシロ	対象水域	太平洋中・南部
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 社会・生態系システム部、千葉県水産 総合研究センター、神奈川県水産技術 センター、静岡県水産・海洋技術研究 所、徳島県立農林水産総合技術支援セ ンター 水産研究課、大分県農林水産研 究指導センター 水産研究部	協力機関名	

1. 調査の概要

千葉県、神奈川県、静岡県、徳島県、大分県の5県から主要漁法・漁獲量に関する情報を、さらに千葉県から令和5年度東京湾千葉県側におけるコノシロ資源評価の情報を収集した。本資源について、資源水準および動向判断は行わなかったが、千葉県が令和5年度に実施した千葉県側東京湾におけるコノシロ資源評価において、本種の資源水準・動向判断を行っていることから、参考情報として一部を掲載した。

2. 漁業の概要

本種の漁獲量について漁業・養殖業生産統計年報より1995年以降について、また、主要漁港の水揚げ量情報を、千葉県は2004年以降、神奈川県は2015年以降、静岡県は2001年以降、徳島県は2003年以降、大分県は2007年以降について集計した。

太平洋中区における本種の漁獲量は2007年に3,864トンでピークを迎えたが、その後は2015年にかけて1,152トンまで減少した。2016年以降は漁獲量が増加傾向にあり、2023年における太平洋中区の漁獲量は3,174トンであった。太平洋南区では、2007年に112トンでピークを迎えたが、その後は緩やかな減少と増加を繰り返しており、2023年の漁獲量は12トンであった（図1、表1）。県別では、千葉県が最も多く、2023年の漁獲量は2,754トンであり、神奈川県（348トン）、大分県（11トン）の順に多かった（図2、表1）。

千葉県では、本種の漁獲量は1996年に2,257トンでピークを迎えたが、その後は減少と増加を繰り返しながらも漁獲量が安定しており、2023年の漁獲量は1996年を上回る2,754トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における水揚げ量データから、本種は近年では主に東京湾で漁獲されているものと考えられる（図3）。なお、今年度の調査において、東京湾における情報が新たに把握でき、千葉県主要漁港における水揚げ量は過去にさかのぼって更新された。

神奈川県では、本種の漁獲量は2008年に848トンでピークを迎えたが、その後は減少と増加を繰り返しながらも漁獲量が安定しており、2023年の漁獲量は348トンである（図2、表1）。主要漁港における月別水揚げ量データより、本種は5～10月にかけて主に三浦半島以西で漁獲されていると考えられる（図4）。

静岡県では、本種の漁獲量は2002年に857トンでピークを迎えたが、その後は減少傾

向が続いており、2023年の漁獲量は5トンであった（図5、表1）。

徳島県の太平洋側では、本種の漁獲量は変動が大きく、若干量の漁獲がある年とない年があり、2023年の漁獲量は0トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における月別水揚げ量データより、同県の播磨灘（瀬戸内海区）では、本種は狙って漁獲されるのではなく、小型定置網に3～10月にかけてわずかに混獲されていると考えられるが（図6）、CPUEは2011年以降低水準にある（図7）。

大分県の豊後水道（太平洋南区）では、本種の漁獲量は2007年に85トンでピークを迎えたが、その後は減少と増加を繰り返しており、2023年の漁獲量は11トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における漁業種別月別水揚げ量データより、本種は主にまき網漁業と船びき網漁業によって漁獲され、小型底びき網漁業、刺網漁業、釣り漁業、定置網漁業、その他の漁業でも漁獲されていた（図8）。漁業種別にみると、いずれの漁業種類でも主に11月～翌年4月に漁獲されるが、まき網漁業とその他の漁業では5～8月の漁獲が多い年もあり、漁法によって漁獲の時期が異なっていた（図9）。なお、今年度の調査において、過去の漁獲量データに瀬戸内区の情報が含まれていたことが判明したため、大分県主要漁港における水揚げ量は過去にさかのぼって更新された。

3. 生物学的特性

東京湾のコノシロについて、「東京おさかな図鑑 東京湾の魚」（東京都島しょ農林水産総合センター、<https://www.ifarc.metro.tokyo.lg.jp/archive/27,951,55,226.html>：2024年11月8日閲覧）に基づき、以下を記載した。

- (1) 分布・回遊：水深15m以浅の沿岸や河口の汽水域に生息する。春～秋季には河口付近および河川内の浅所に生息するが、冬季には外洋に近い湾口部の比較的深部に移動する。
- (2) 年齢・成長：1年で体長10cm前後、2年で約15cm、3年で約20cmに成長する。
- (3) 成熟・産卵：満1歳で成熟する。産卵期は春～初夏。産卵場は内湾域にある。卵は球形で直径1.5mm前後。ふ化仔魚の体長は3～4mm前後である。
- (4) 被捕食関係：雑食性で、植物および動物プランクトンを捕食する。

4. 資源状態

本資源は評価対象海域の広い海域において多様な漁法で漁獲される特徴を持ち、対象海域と漁法を網羅する努力量情報が得られないことから、海域全体では資源水準の判断は行わないこととした。千葉県（東京湾）の沿岸重要水産資源令和5年度資源評価（千葉県2024）では、東京湾千葉県側における中・小型まき網漁業による漁獲量を基準にして、2022年の水準を高位、動向を増加と判断している。

5. その他

東京湾においては、中・小型まき網漁業では冬季に休漁期間を設定している。加えて、小型底びき網漁業でも、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コノシロ以外の魚種も含めて漁業種類ごとに自主的な資源管理が行われている（千葉県2024）。

6. 引用文献

千葉県 (2024) 千葉県 沿岸重要水産資源 令和 5 年度資源評価 コノシロ (東京湾)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gyoshigen/sigenhyoka/documents/02-r5konoshiro.pdf>

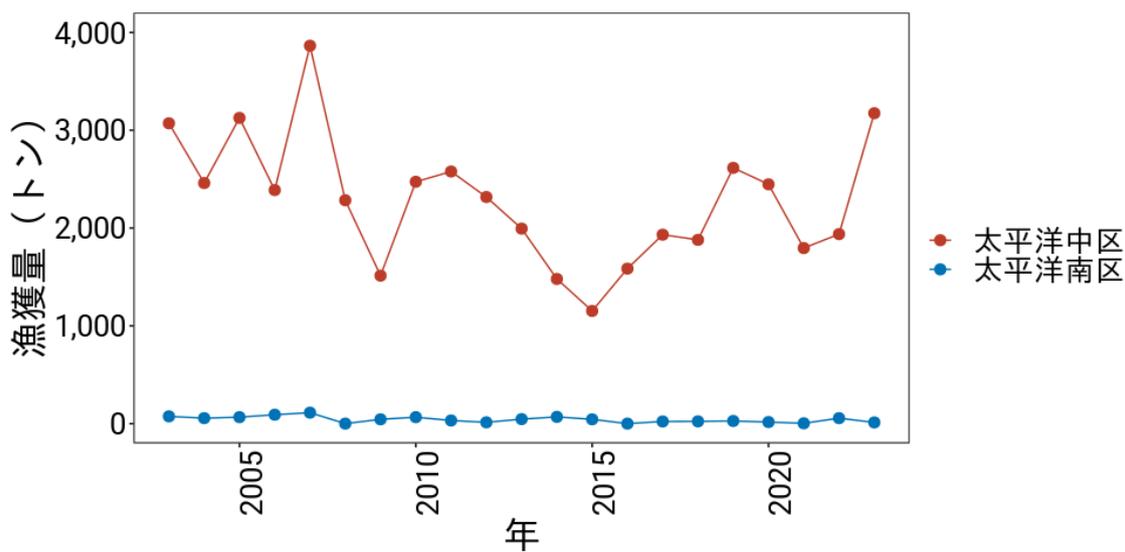


図1. 2003年以降の太平洋中区および南区におけるコノシロの漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報）

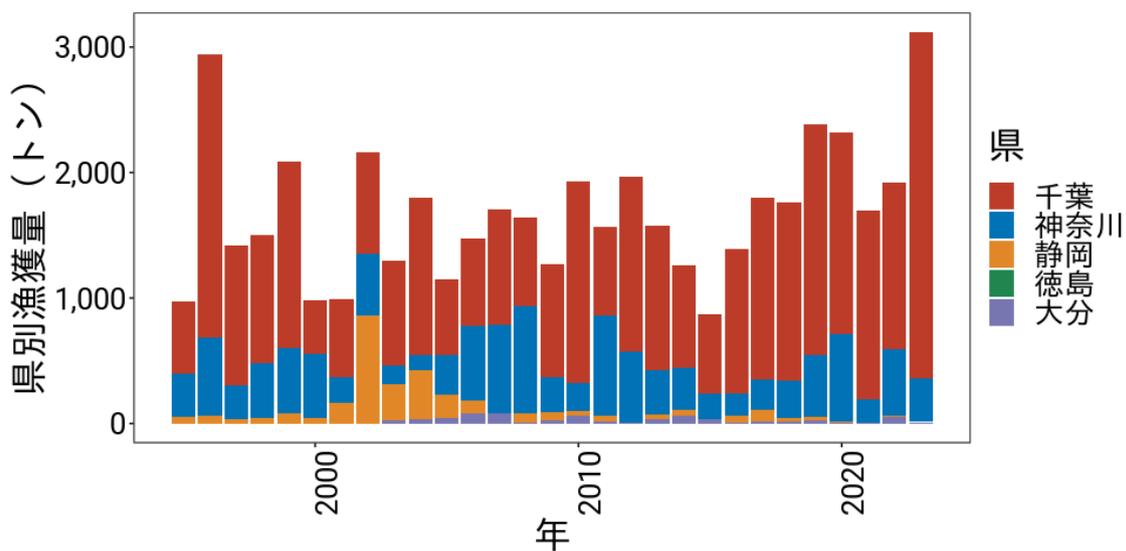


図2. 太平洋中・南部の調査対象県におけるコノシロの県別漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報） 集計期間は県によって異なる（千葉県：1995～2023年、神奈川県：1995～2023年、静岡県：1995～2023年、徳島県：2003～2023年、大分県：2003～2023年）。

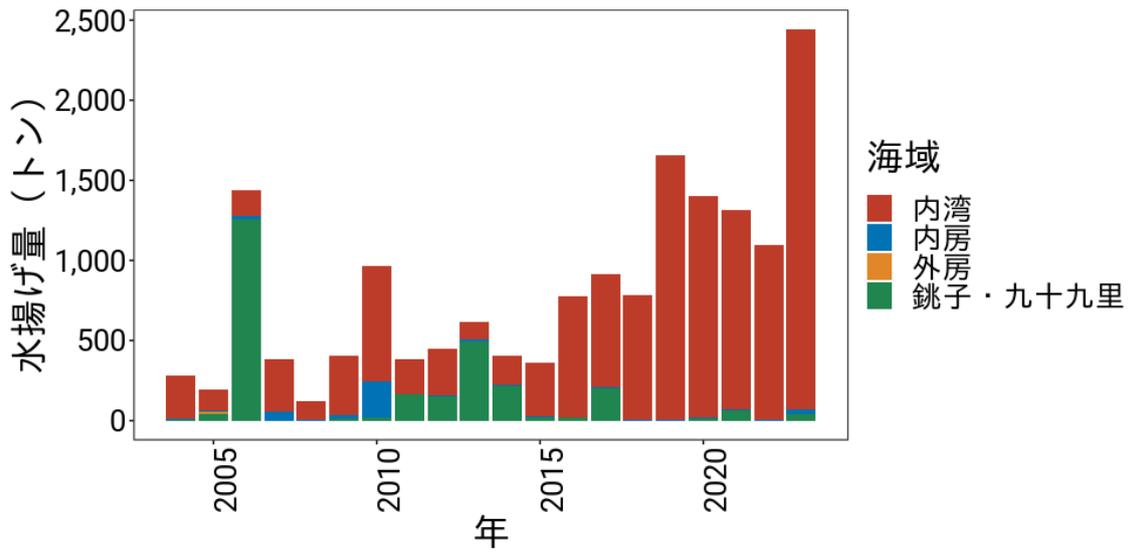


図3. 千葉県各海域の主要漁港におけるコノシロの水揚げ量（属地統計） 2006年の銚子・九十九里における水揚げ量は他県船による水揚げ量も含む。

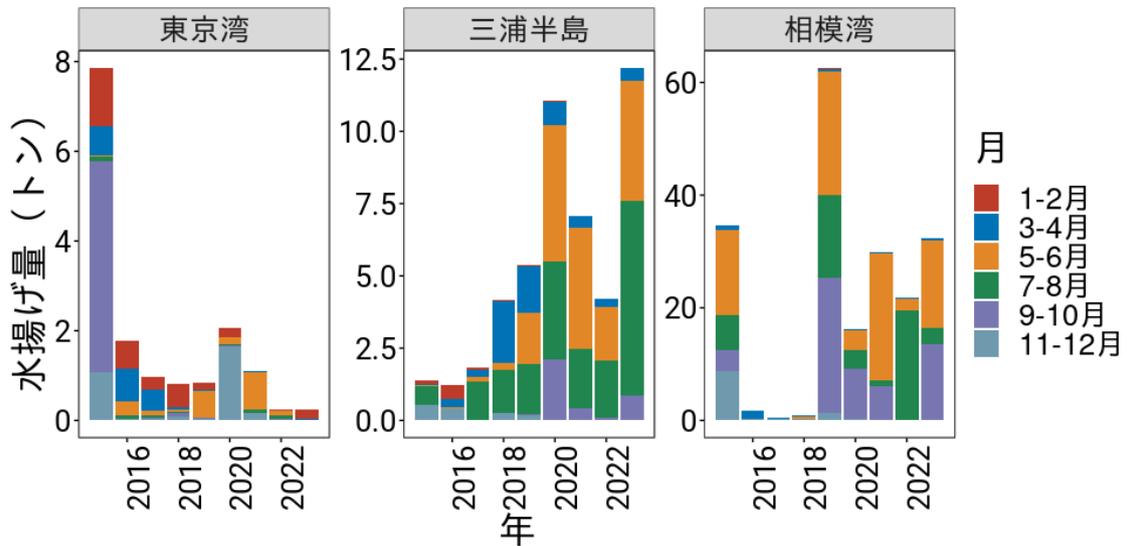


図4. 神奈川県各海域の主要漁港におけるコノシロの月別年別水揚げ量の推移

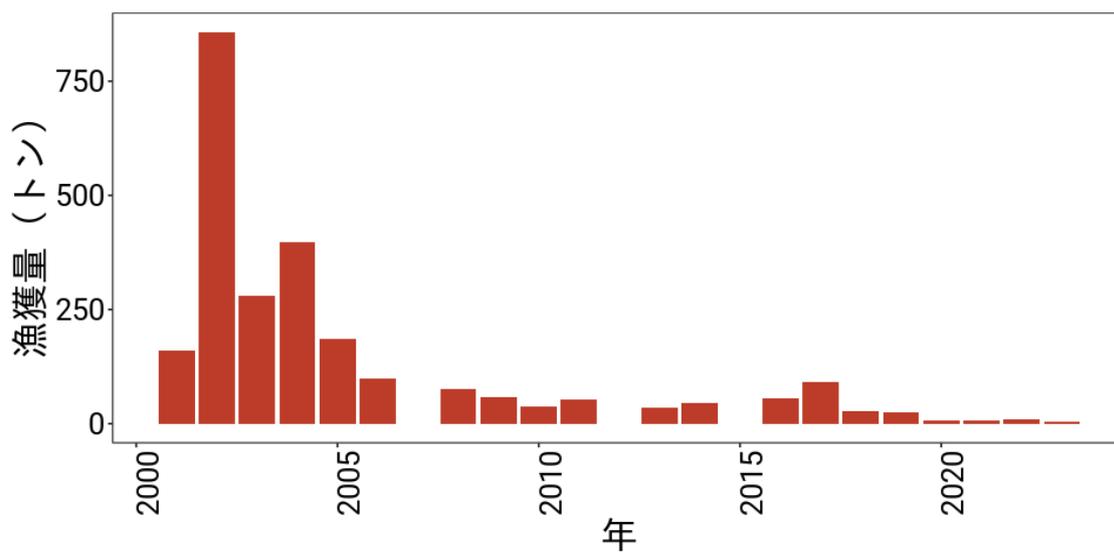


図5. 静岡県における2001年以降のコノシロの漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報)

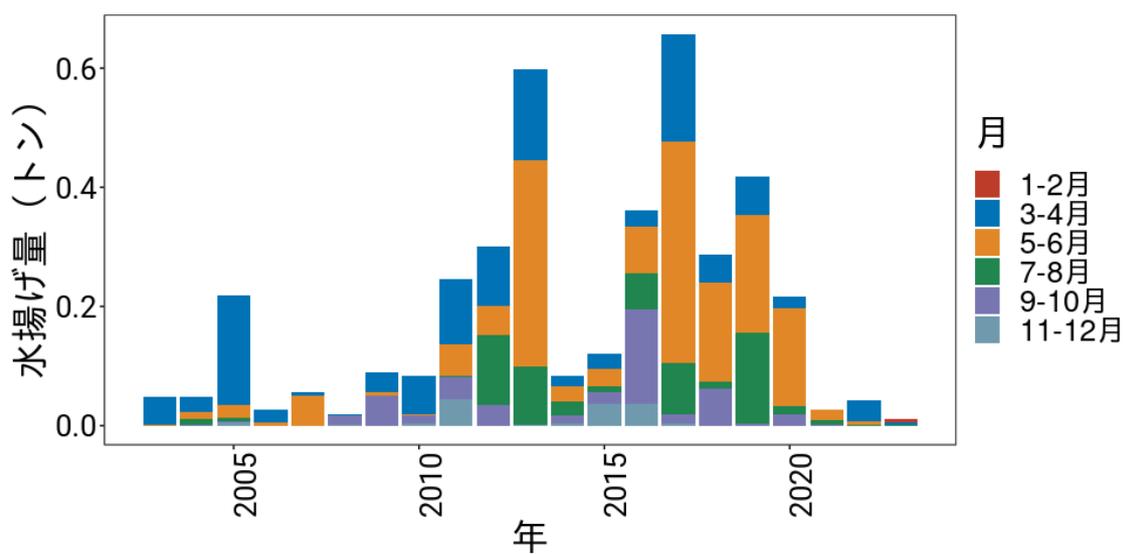


図6. 徳島県播磨灘の主要漁港におけるコノシロの月別年別水揚げ量の推移

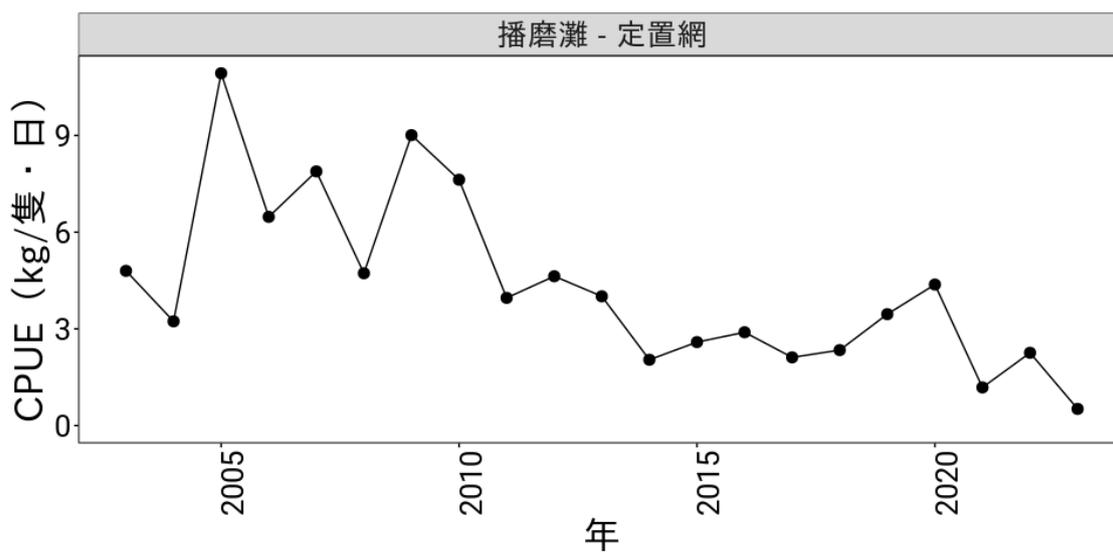


図7. 徳島県播磨灘の代表漁港における定置網漁業によるコノシロのCPUE (kg/隻日)

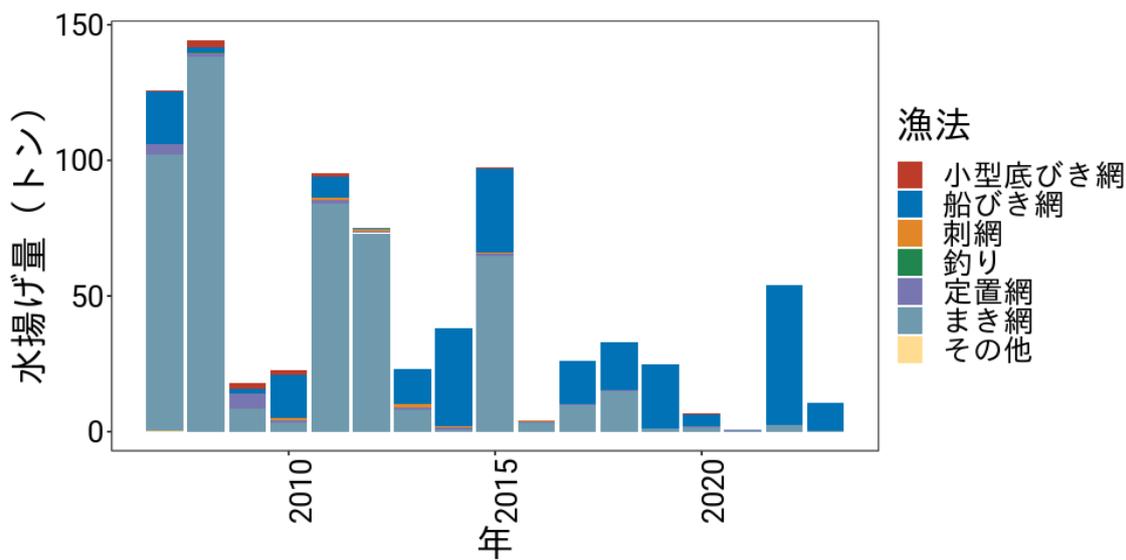


図8. 大分県の代表漁港におけるコノシロの漁業種類別水揚げ量

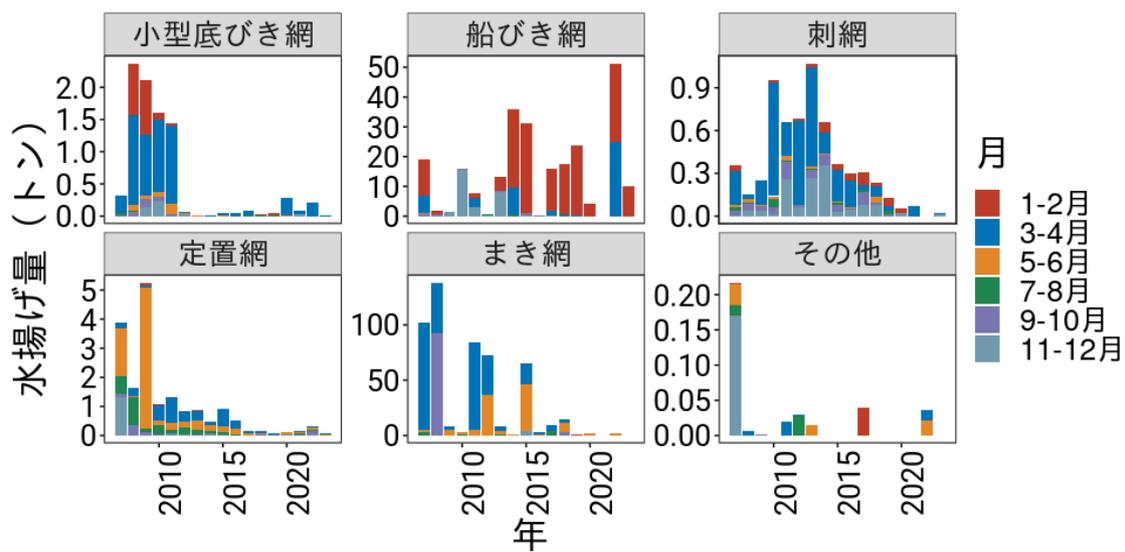


図9. 大分県の代表漁港におけるコノシロの主要漁業種類別月別年別水揚げ量の推移

表 1. 1995～2023 年におけるコノシロの調査対象県および海区別漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報、単位：トン） 徳島県と大分県は太平洋南区における漁獲量を示す。また、太平洋中区および南区の漁獲量は、調査対象県以外の値を含む。-は漁獲の事実がないこと、x は個人、法人またはその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値が未公表であることを示す。

年	中区	南区	調査対象県				
			千葉	神奈川	静岡	徳島	大分
1995			578	341	52		
1996			2,257	627	58		
1997			1,118	272	31		
1998			1,015	442	41		
1999			1,488	521	79		
2000			421	510	47		
2001			623	205	161		
2002			808	496	857		
2003	3,071	74	835	152	281	0	28
2004	2,460	56	1,253	116	398	0	31
2005	3,126	66	606	314	185	0	45
2006	2,388	91	696	597	100	0	80
2007	3,864	112	925	698	0	0	85
2008	2,284	x	711	848	75	0	10
2009	1,513	44	895	284	59	0	29
2010	2,473	66	1,615	223	38	-	58
2011	2,578	32	701	798	52	0	14
2012	2,317	13	1,392	571	0	-	6
2013	1,994	46	1,154	353	35	x	32
2014	1,479	69	815	337	46	x	60
2015	1,152	44	630	206	0	x	36
2016	1,583	x	1,146	182	56	x	3
2017	1,932	22	1,448	243	91	x	18
2018	1,879	23	1,424	290	27	x	20
2019	2,615	27	1,838	499	24	x	25
2020	2,447	16	1,609	699	8	0	6
2021	1,795	3	1,502	184	8	0	2
2022	1,938	56	1,328	530	9	0	53
2023	3,174	12	2,754	348	5	0	11